

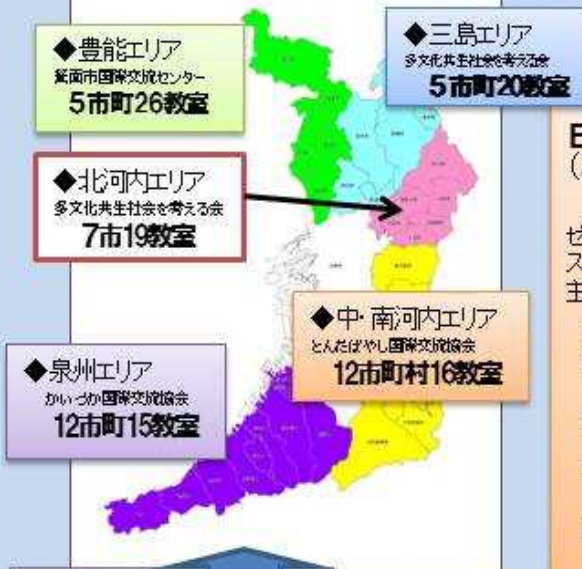
「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
地域日本語教育実践プログラム(B)
地域で活動する識字・日本語教室の支援力強化事業
大阪府教育委員会

大阪府の現状(平成28年)
人口約884万人 在留外国人 約22万人(約2.4%)
識字・日本語教室 214教室(府把握分)
学習者 5,198人 支援者2,876人

識字・日本語学習活動推進の課題(平成27年度まとめ)

- 1 学習機会の不足
- 2 学習活動への支援
- 3 教室経営の支援
- 4 人材の育成
- 5 情報共有や周知・広報
- 6 連携・協力体制の構築

教室のネットワーク構築



教育の支援力強化

日本語初心学習者支援講習会
(8月23日～10月4日全6回)

26名参加
ゼロ初級者の支援に必要なスタンスと
スキルを学ぶ
主な内容

- 外国人学習者の不安(体験談 右写真)
- 初心学習者が直面する課題と解決策
(大阪こども多文化センター)
- 初心学習者の対応のポイント
(いこまご・なんば)
- 初心学習者向け教材について
(京都国際交流センター)
- 初心学習者への実践手法(具体的方法)
(大阪YWCA日本語教師会)



教室訪問

3年で全教室訪問、課題共有とネットワーク構築

エリアネットワーク会議

行政とコーディネーター支援者でネットワークを構築

交流会

従前実施していたブロック交流会を拡大、学習者どうしの交流拡大

取組み事例集の作成
(平成30年度)

各教室の取組みを集約し、教室で活用できる取組み事例集を作成予定

外国人学習支援者養成講座

(1月14, 21, 28日 全3回11名参加)
学習者が支援者となるための講習会

主な内容
地域に根ざした識字・日本語教室をめざして(京都女子大学 岩槻知也)
府内の識字・日本語教室の現状(地域教育振興課)

体験を話そう
できること てつだえること
(府立高校教員、夜間中学校教員)

社会とつなぐ日本語教室運営基礎講座

(12月7,14,22日 全3回 26名参加)
生活上課題を解決するための連携を学ぶ

主な内容
日本語学習者を受けとめた識字学級
(下瓦屋識字教室)

外国人の相談内容と対応
(公財)大阪国際交流財団
コミュニティソーシャルワーカーの対応事例
(八尾市内コミュニティソーシャルワーカー)
外国にルーツを持つ人々の災害時の困り感
(多文化共生マネージャー全国協議会)

識字・日本語学習シンポジウム

教室訪問の成果交流(システム・コーディネーター)
識字・日本語教育の全国及び大阪府の現状と今後
京都大学名誉教授 上杉 孝寛



「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
地域日本語教育実践プログラムB

第1日目
パネル展

事業実施概要

事業名称	地域で活動する識字・日本語教室の支援力強化事業			
地域の課題	府内の在留外国人数は増加傾向にあり、とりわけ永住者数は平成22年～平成26年で20%増加している。在留外国人をめぐる社会的孤立、貧困、婚姻関係、子どもの教育等の課題がさらに多様化、複雑化することが予想され、日本語教室が果たす役割も高まり、教室の学習者への対応力強化が望まれる。			
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・府内の識字・日本語教室相互の連携体制を構築する。 ・学習者の多様なニーズに応えられるスキルを高め、教室の支援力を強化する。 			
事業内容	取組1		取組2	
	名称	エリアにおける協働体制の構築	名称	日本語初心学習者支援講習会
	目的	エリア内の識字・日本語教室相互の連携体制を構築する。	目的	初めて日本語を学ぶ学習者への学習支援方法の基礎を身につける。
	内容	府内を5つのエリアに分け、各エリアにシステムコーディネーターを1人配置し、教室の活動状況の把握と教室間の協働関係づくりを進める。	内容	日本語がほとんど話せない人とのコミュニケーション方法や、サポート時の留意点などを学ぶ講座を実施する。
	対象	府内全教室を3年間で訪問	対象	識字・日本語教室の学習支援者
	時間	—————	時間	1回 2時間×6回（全12時間）
	人数	—————	人数	40名上限（平成28年26名）
	取組3		取組4	
	名称	社会とつなぐ教室運営基礎講座	名称	外国人学習者支援者養成講座
	目的	学習者からの生活に関わる相談等への対応力を高める。	目的	外国人学習者が、経験や母語を活かし、学習支援者として活動していけるようにする。
	内容	ソーシャルワークの手法や相談できる組織を知る講座を実施する。	内容	学習支援者として必要な知識やスキルを学ぶための講座を実施する。
	対象	識字・日本語教室の学習支援者	対象	識字・日本語教室で学んだ学習者
	時間	1回 2時間×3回（6時間）	時間	1回 2時間×3回（6時間）
	人数	40名上限（平成28年26名）	人数	20名上限（平成28年10名）
	取組5		取組6	
	名称	識字・日本語学習シンポジウム	名称	だい28かいよみかきこうりゅうかい
	目的	本事業の進捗状況を共有し、成果と課題を整理する。識字・日本語学習の認知を深める。	目的	学習者、支援者が情報交換や意見交流を行い、意欲や課題解決のヒントを得る機会とする。
	内容	システムコーディネーターのリレートークおよび学識経験者の講演	内容	大阪府内の識字・日本語教室の学習者、学習支援者が一堂に会する交流会。
	対象	市町村識字・日本語担当者および各教室コーディネーター	対象	識字・日本語教室の支援者、学習者
	時間	3時間	時間	6時間
人数	51名	人数	約400名	
取組7				
名称	日本語教室「にほんご・なんば（よる）」による日本語教育活動			
目的	多様な学習者が集まるターミナル型教室の特徴を活かして、持続可能な形で活気ある教室活動になるよう、先進的な取り組みを実施し、府内の他の識字・日本語教室に発信する。			
内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 次世代の学習支援者を拡大するために、大学等で教室活動の広報・案内を行う。 2. 外国人住民への教室活動の案愛等、外国人学習者が主体となる取り組みを実施する。 3. 教室運営委員会を設置し、学齢期外国人学習者への日本語教室での支援のあり方を検討する。 			
時間	1回2時間×40回（80時間）	人数	約30人	
連携体制	箕面市国際交流協会、多文化共生社会を考える会、とんだばやし国際交流協会、かいづか国際交流協会、にほんご・なんば（よる）識字・日本語センター等			
成果と課題	<p>（成果）支援者のスキルアップが図れ、教室間のネットワークが構築できつつある。</p> <p>（課題）さらなる広報や情報提供体制の充実。</p>			